

平成31年度 学校自己評価システムシート (県立川越女子高等学校)

目指す学校像	「学力の向上」と「人格の陶冶」を柱に組織的教育活動を展開して進学実績の向上を図るとともに、生徒が主体的に学ぶ「質の高い授業」の創造に全力で取り組む学校
--------	---

重点目標	1 ≪学力の向上≫ 生徒の学習意欲及び進路意識を喚起し、自学自習力の定着・維持に努め、真の学力の向上を図る。 2 ≪人格の陶冶≫ 「品格のある、志の高い生徒」「自主・自律の精神に満ちた自立した生徒」を育成する。 3 ≪開かれた学校づくり≫ 関係機関との連携を更に深め、学校情報の積極的な発信に努める。
------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒	20名
	事務局(教職員)	11名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標					年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)		実 施 日 令 和 2 年 2 月 8 日	
番 号	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 方 策	方 策 の 評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策	学 校 関 係 者 か ら の 意 見 ・ 要 望 ・ 評 価 等
1	<p>■現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2学期制、土曜授業、行事の精選等により授業時間確保に努めている。 ・授業相互参観・先進校訪問・予備校研修参加等、教員が常に学ぶ姿勢をもっており、質の高い授業が展開されている。 ・進路指導部と各学年等との連携を通じた様々な取組により、生徒一人一人の進路意識の向上に努めている。 <p>・SSH事業や県の指定事業等を有効活用している。</p> <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒自身の取組状況を改善する。 ・ワンランク上を目指す進路意識の啓発を行う。 ・新大学入試をはじめとする高大接続改革に対し、組織的に具体的な対応を行う。 ・SSH、県指定の事業等を効果的に活用し、学校全体で事業を推進、実施する。 	1より計画的、自主的な学習とともに主体的な学びをさらに推進する。	<p>①自学自習を支援するために、シラバスの配布、学習OT実施、スタディサポートや補講、集中学習、読書指導、施設、資料等の充実などによりサポートする。</p> <p>②教員授業相互参観や教科指導力向上セミナーへの参加を通じて、授業の質を向上させる。</p>	<p>①進路実現のための自学自習体制の実現に必要なサポートができたか。</p> <p>②教員の授業力向上のための取り組みの支援が年間を通じて計画的・効果的に実施できたか。</p>	<p>①1学年：第1考査前に「学習計画表」を用いて各自の課題の把握と目標設定、各教科での考査振り返りや間違い直しノート等の有効活用により、改善点の自覚、改善ができた。2学年：秋の集中学習、進学補講等により前期・後期ともに80%以上が学習姿勢を高評価できた。3学年：進路に向けた演習等、計画的、効果的な授業や、長期休業及びに平日の補講も充実させた。</p> <p>②夏季・冬季の教科指導力向上セミナーへの参加、教員相互授業参観、「未来「学び」」公開研究授業を実施した。</p>	A	<p>自学自習の習慣については、課題や計画表等により定着しつつある。今後は、行事の在り方の検証や校務支援システムの充実、2022年度新教育課程実施に向け、引き続き各分掌間の連携を図り問題点の共有をすすめていく。授業力向上に取り組んでいる。今後は、教科間連携も視野に入れた教材の研究も進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●重点項目《学力の向上》については、自学自習を打ち立て、生徒の学ぶ力をつける指導を行ってきたことは評価に値するとともに今後に期待したい。 ●生徒・教員間の信頼関係が学力向上に結びついていると思われる。生徒の気持ちを丁寧にくみとり、先生方は誠実に対応を行っている。 ●進路勉強会等で常に進路の情報を提供していただいているのは、保護者には有り難いことである。 ●SSH事業を第4期に繋げていくことが、今後の本校の在り方においては大きなポイントとなると思われる。
		2保護者と連携し、国公立大学、難関私立大学、医学部を目指す進路意識の啓発を継続する。	<p>①保護者のための進路勉強会・大学見学会を開催し、進路意識の啓発の一助とする。</p> <p>②模試の分析会等を通して生徒の学力状況を把握し指導にあたる。</p> <p>③研修会等で進路情報を提供する。</p> <p>④難関大個別指導体制を充実させる。</p> <p>⑤生徒向けガイダンスを充実させ、外部検討会への参加、情報収集を行い、新入試にむけて準備をする。</p>	<p>①進路勉強会参加人数が8割を超えたか。</p> <p>②③研修会・志願校検討会などを通じて進路情報の共有化が図れたか。また、これらの方策により生徒の進路実現が達成されたか。</p> <p>④進路実現が達成できたか、また、国公立100名以上、難関大学80名以上の合格を達成できたか。</p> <p>⑤新入試対策の具体的な方策を講ずることができたか。</p>	<p>①②③進路勉強会への参加者数は全ての回で約80%を超えた。実施後の保護者の評価は良好であった。</p> <p>④国公立大学第一希望者の割合：48.5% (53%)、難関私立大学、医学部第一希望者の割合：25.1% (20%) となった。</p> <p>⑤1・2年生でのeポートフォリオ作成や資格試験受験のフォローを行えた。課題研究・ビブリオバトル・HRイベント等生徒の能力向上の取組を実施した。</p>	A	<p>生徒自身の希望進路実現のために、早い時期からの取組ができるような環境作りが大切である。保護者と学校が理解を深める勉強会の継続と連携を行う。</p> <p>学年・教務部・進路指導部が連携し、より早期から類型選択希望の重要性を認識させたい。</p>	
		3SSH事業、県指定事業内容について、生徒への積極的な情報提供により参加を啓発するとともに、学校全体で事業を推進・実施する。	<p>①7つのSSH事業について情報提供・説明会を行い、全校でSSH行事に積極的に参加していく体制をつくる。</p> <p>②SSHニュースの定期発行とSSHホームページの迅速な更新を行う。</p>	<p>①SSH事業への参加者が昨年(918名)より増加したか。</p> <p>②滞りなくSSHニュースを発行し、速やかなホームページの更新が行えたか。</p>	<p>①参加数は、昨年と同様であった。外部企画に参加希望する生徒は、増加した。地球天文部の課題研究は、来年度総文祭参加決定した。生物部は課題研究に加え、外来生物に関する問題について地域の調査と成果普及に川の交流会参加や生態学会でポスター発表実施した。</p> <p>②SSHニュースを発行し、速やかなホームページの更新が行えた。本年度は中間評価に際して、運営指導委員会、学校評価委員会からの提言や過去の振り返りを行い、総括、次年度以降への課題を明らかにすることができた。</p>	A	<p>SSH事業を学校の教育目標の中に明確に位置づけられ、運営指導委員会、学校評価委員会からの提言や過去の振り返りを行い、総括、次年度以降への課題を明らかにすることができた。今後第4期申請に向けての試案を進めていくために、教員・生徒が共通認識の元、学校全体で一丸となった事業展開を推進する。</p>	
2	<p>■現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの生徒が多様な活動に自主的かつ積極的に取り組み、充実した高校生活を送っている。 ・教育相談体制が整っている。 <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来、あらゆる分野で活躍するリーダーを育成する。 ・部活動指導方針を踏まえつつ、部活動の充実を図る。 ・支援の必要な生徒に対し、適時・適切に対応する。 	1外部講師の活用や海外プログラムへの参加を積極的に進める。	<p>①卒業生による懇談会やガイダンスを実施し、生徒の進路意識を高める。</p> <p>②大学や研究機関、企業などから講師を招き出張講義を年6回開催する。</p> <p>③英語プレゼンテーション学習会や海外研修への積極的な参加を促す。</p>	<p>①生徒の進路意識向上に繋がったか。</p> <p>②魅力的な内容の出張講義を開催し、生徒の知的好奇心を刺激できたか。</p> <p>③昨年度以上の参加者数を得られたか。</p>	<p>①SSH出張講義では、満足度4段階で平均3.6以上、その他の講義でも感想から生徒の知的好奇心を刺激できた。</p> <p>②業界で活躍する卒業生による講演等を実施し生徒の意識を高められた。</p> <p>③オーストラリア海外研修、英語プレゼン、サイエンスダイアログを予定通り実施。海外研修の報告を全校集会で言い、広く成果を広めた。</p>	A	<p>各界で活躍する卒業生等による出生授業・講演会は生徒に刺激的な時間となっている。さらに、新入試も視野に入れつつ、人格の陶冶を目指したより効果的な内容を検討していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●《人格の陶冶》については、様々な特色ある行事などにより、自己コントロールする力を育成しており、人間力を上げていく教育を行っていると思われる。 ●支援を必要とする生徒が増えてきているが、生徒たちのニーズに迅速かつ適切な対応をこれからも期待したい。 ●目先の進路選択だけでなく、もっと先の生き方を展望できる進路指導の在り方について、今後も期待する。
		2計画的・効果的な部活動の実施により、豊かな人間関係の構築を図る。	<p>①生徒各自の立場、責任に基づく判断力・行動力を育てる。</p> <p>②計画的で効果的な特別活動を行う。</p> <p>③支援の必要な生徒へ適時・適切な対応ができる体制を専門機関の利用や教員研修を通して構築する。</p>	<p>①生徒各自がそれぞれの立場を自覚し、責任の下で行動する姿勢を身につけられたか。</p> <p>②より計画的で効果的な活動を実施できたか。</p> <p>③学年・生徒指導部・教育相談担当者等の連携により、支援の必要な生徒への対応を行えたか。</p>	<p>①学校行事や部活動等を通じ、生徒各自がそれぞれの立場・責任を自覚して行動し、役割を果たした。</p> <p>②指導方針に基づき、計画的な運営ができた。</p> <p>③学年・生徒指導部・教育相談担当者等の連携により、支援の必要な生徒への対応を行えた。カウンセラーや専門機関との連携や教員研修を通して指導普及を図った。</p>	A	<p>体育祭や文化祭など参加する生徒の意識が変化している。本部と委員会との連携により意識向上を図る。</p> <p>支援を必要とする生徒のSOSを早くキャッチできる環境作りを行う。</p>	
		3保護者、学校、外部機関等と連携しながら生徒支援を行う。	<p>①PTA、後援会、体育文化振興会等を通じて、適切な生徒支援を行う。</p>	<p>①各種行事・部活動が円滑に行われたか。</p>	<p>各団体が積極的に関わり学校の支援を行っている。さらに、連携した活動を行う。</p>	A		
3	<p>■現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SSH事業を生かし、小学校、中学校、大学等と連携を深め、特色ある教育活動を積極的に発信している。 <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校の良さをさらに情報発信する。 ・地域への貢献を継続する。 	1本校の特色ある教育活動を広報・公開する。特に部活動のページの更新を積極的に行う。	<p>①年5回の学校説明会や土曜日公開授業等により、広報を積極的に行う。</p> <p>②校内各部署の連携を強め、学校全体でホームページの更新を行う。</p>	<p>①参加者の増加、アンケートの肯定的意見が多く得られたか。</p> <p>②HPの更新回数が昨年度(239回)より増加できたか。</p>	<p>①昨年同様の参加者やアンケートの意見を得られた。</p> <p>②年度途中でネット共通のシステム変更があり、それを機にホームページのデザイン変更を行い見やすさを改善した。更新回数は昨年度より増加した。</p>	A	<p>タイムリーな更新を目指し、教職員への働きかけをより一層強化する。多くの方に見て頂くために、情報提供をより一層強化する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●《開かれた学校づくり》については、小中支援事業などを通じた子どもたちと生徒とのふれあいは、双方に良い効果をもたらしていると思われる。
		2市内の小中学校への学習支援等を行い地域に貢献する。	<p>・近隣の小・中学生対象の補充学習支援ボランティアについて、小中学校との協働性に留意しながら教務部等で企画立案、実施する。</p>	<p>・本校生、小・中学生双方にとって有意義な活動となり、地域へ貢献できたか。</p>	<p>中央小112名、仙波小54名、富士見中53名、南古谷中25名の学習支援ボランティアを派遣、中央小学校への科学クラブ支援や、地域の天文観察会を開催し、その成果を普及した。</p>	A	<p>近隣小・中学校との連携により相互有効な活動となっている。日程、参加者募集等検討していく。</p>	